

女性農業経営士との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	女性農業経営士
日時	令和5年9月7日（木）18時30分から20時40分まで
場所	鹿屋市役所 議会棟2階 第4委員会室
参加者	女性農業経営士9名
	市長、畜産振興監、政策推進課長、農政課長、地域活力推進課職員、農政課職員、政策推進課職員
意見交換	
<p>1 農業の魅力</p> <p>2 これから明るく夢がある農村社会にするために必要なこと</p> <p>3 女性に伝えたい農家と結婚するメリットや結婚したい農業男性に送るエール</p>	
【参加者からの主な意見】	
<p>1 農業の魅力</p> <p>《参加者》</p> <p>○自分で自由に時間設定ができる。孫の面倒を見たりするのに時間の融通が効く。</p> <p>○頑張った分だけ見返りがある。</p> <p>○農業はしたことはなかったが、農業をしたことで多くのネットワークができた。</p> <p>○分からないことはみんなが親切に教えてくれた。</p> <p>○地域の方々の助け合いに恵まれた。農業だからこそ、助けられた。</p> <p>○良いも悪いも親子三代で楽しめるところが農業の魅力。</p> <p>○夫婦で一緒の仕事をしているので、機嫌や体調の良し悪しが分かるようになった。</p> <p>○農家だからこそ、旬のものがいつでも食べられる。</p> <p>○孫たちは自分の牧場がお気に入り。機械も本物に乗れる。</p> <p>○自分達が楽しく仕事をしていれば、後継者も育つのではないか。</p> <p>○食べ物は必要不可欠であり、農業は最後まで残る産業だと思う。</p> <p>《市長》</p> <p>●10万人都市で子どもの数は全国でも多い方。農家は子どもがたくさんいる。</p> <p>●不登校の子が増えている。農家には不登校の子が少ないのではないか。家族経営のため、親や祖父母の愛をたくさん受けている印象がある。</p> <p>2 これから明るく夢がある農村社会にするために必要なこと</p> <p>《参加者》</p> <p>○労力と収入が見合わないと続けられない。自然が相手だから大変だけど楽しみもある。</p> <p>○全部手作業でするわけではない。スマート農業で経費はかかるが手間は掛からなくなってきた。</p> <p>○周りに相談できる頼れる先輩農家がいたのはすごく良かった。縦と横のつながりが強い印象。</p> <p>○鹿屋市出身の若者の方が、農業は大変との認識がある。</p> <p>○農家が高齢化してきている。若い担い手が入って来られるようにすることが大切。</p>	

- 都会には仕事に疲れた若い人がいて、農業に対する一定のニーズがある。体験ツアーを実施してみてもいいのでは。
- 農業の基本を学べる場所があるといい。刺激や共感できる場があれば安心する。
- 新規就農者には手厚いが、中堅どころには厳しい。耕作放棄地を見ると農業の難しさを感じる。
- 仕事をしながら数頭を育てている若い人や80歳過ぎの高齢農家もある。高齢農家には重労働は大変。受託業者があればいい。
- 機械に頼りすぎてはいけない。最終的には自分の目で確認することが大切。
- 女性の農業に対するイメージを変えたい。農業の良いイメージのPRが必要。
- 若い方達が入りやすいように形から入る農業もありかもしれない。

#### 《市長》

- コストがかかりすぎる農業になってきている。技術と手間暇をかけるが、これに見合った収入が必要。一次産業は伸び代のある分野だと思う。
- 農作業の受委託組合は必要である。ただ組合の機械は大型化しており、小さい農地では作業ができないので、農地の大区画化も考えなければいけない。
- リスクリングの想いは大切。農業のまちという割には、実践している人は少ない。転勤族が多いので鹿屋市で農業を学ぶきっかけづくりが出来ればいい。
- 婚活には男性の参加者が少ない。今はアウトドアミーティングと言ってフランクな出会いの場を創出している。
- 農家だけでまとまるのではなく、非農家まで含めて輪を広げること、関係人口を受け入れることなど仲間づくりが大切だと思う。

### 3 女性に伝えたい農家と結婚するメリットや結婚したい農業男性に送るエール

#### 《参加者》

- 農業は子育てするにはとてもいい。周りが支えてくれる。
- 地域の中で農業をするには地域の理解が必要。
- 農業は、身体的なストレスはあっても、人間的なストレスはない。
- 農家は社長。夫婦で仕事をしていれば、どちらかが休業せざるを得なくなっても収入を確保できるメリットはある。
- 子育てするには農家がいい。子どもや孫の急な病気であっても対応できる。
- 地域の中で農業をするには地域の理解が必要。畜産も牛舎に来てもらって、見てもらわないことには理解してもらえない。最近女子高生を実習で受け入れることもあるが、農業をしながらこんな楽しみもあるよ、と伝えるようにしている。

#### 《市長》

- 市も頑張っている農家を守ることが必要。非農家に農家の努力を認めてもらえる取り組みをしていかないといけない。
- 鹿屋のこれからの農業にとって女性の農業経営士は欠かせない。畜産の方は和牛青年部など若手が盛り上がっている。農業が一丁目一番地、何ができるのか職員の中で協議させていただく。